

令和6年度 第4回 学校運営協議会 記録

R7.2.18 (火) 13:30～15:30

※外部参加者（学校運営協議会委員）

菅沼泰夫氏（三方原地区根洗町自治会長）

山本浜雄氏（細江地区湖東自治会長）

安達 広氏（社会福祉法人聖隷事業団 医療保護施設・地域医療支援病院
総合病院 聖隷三方原病院 執行役員・事務局長）

堀内 剛氏（浜松市社会福祉事業団 浜松市発達医療総合福祉センター
福祉センター所長）

加藤久貴氏（弁護士法人 リコネス法律事務所 弁護士）

山田浩昭氏（浜松学院大学 教授）

松本浩一氏（西部特別支援学校 PTA 会長）

※校内参加者 校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、 訪問主任、教務課長、総務課長

<学校運営協議会>

1 開会の言葉

2 校長挨拶

3 協議事項

(1) 学校評価

【全体（学校自己評価、保護者アンケート結果）】教頭より説明

○事後も含めた緊急時の対抗力向上

・ A 委員：D評価が4.4%あるが、学校としてはどのような認識か。

⇒教 頭：全体的なことは理解しているが、個々の動きの部分が難しいと感じている。
来年度、類型ごとに事例児をあげて、避難訓練の細かいところまで考えていく。

・ B 委員：保護者の防災意識は171の実施率から見て判断しているのか。

⇒副 校 長：保護者にも防災意識の高まりについてアンケート聴取している。

・ 委員一同：A評価で良い。

○すべての児童生徒が体調を整え、気持ちよく生活できるための取組の充実

・ C 委員：性教育全体計画の活用の項目は、D評価が8.1%ある。

⇒教 頭：重度の児童生徒への性教育に対して、職員も悩みながら指導している。

⇒D 委員：具体的な対応策はあるのか。

⇒教 頭：全体計画によって指導内容は決まっているので、どのように授業に取り入れていくかを考えていく。

・ E 委員：具体的な教育内容を教えてほしい。

⇒中学部主事：Ⅰ・Ⅱ類の生徒は、外部講師を招聘して講座を受けている。重度の子にどのように教えていくのか難しい。

⇒副 校 長：重度のお子さんに対しては、「自分の体を知る」ということも性教育の一環

としてとらえている。

- ・ B 委 員：性教育全体計画そのものを見直してはどうか。今の達成方法は「性教育全体計画を活用できたか」であって、「適切な性教育を行う」ではない。
- ・ 委員一同：今後の活用方法、指導内容も考えていきたい。B評価で良い。

○多様性を認め合い高い人権意識をもった児童生徒と教員

- ・ 委員一同：A評価で良い。

○教育課程の組織的な検討と仕組みづくり

- ・ D 委 員：「教員一人一人が取組のつながりを実感」とあるが、基準はあるのか。
- ⇒教 頭：教員が子供に必要な教育内容と時数について自分の言葉で説明できるようになるとよい。
- ・ B 委 員：教育課程を「考える」だけでなく、今後はしっかりと理解できるような取組を行っていけると良い。
 - ・ 委員一同：A評価で良い。

○「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり

- ・ B 委 員：専門的な言葉が多くて、やや伝わりにくいのではないか。
- ⇒D 委 員：各学部の活動内容の紹介のときに合わせて伝えてもらえると分かりやすい。
- ⇒副 校 長：今後は、先に各学部の様子をお伝えするようにしていく。
- ・ F 委 員：理解度としてはA評価で良いと思う。
 - ・ 委員一同：A評価で良い。

○教員の専門性の向上

- ・ C 委 員：学校を訪れたときに、先生方が一生懸命に指導している。
 - ・ E 委 員：研修の回数等は決まっているのか。
- ⇒教 頭：年間計画で決まっており、外部講師を招いての研修もある。
- ⇒副 校 長：特に食事の指導は命にかかわることなので、本校赴任1～3年目の教員に対し計画的に研修を行っている。
- ・ 委員一同：A評価で良い。

○キャリア教育の充実

- ・ E 委 員：キャリアパスポートは、卒業後も進路先で使える材料となるのか。
- ⇒教 頭：学びの履歴として、次の進路先に持っていくことができるようにしている。
- ・ F 委 員：毎年更新し、きちんと積み重ねていけると良い。
 - ・ 委員一同：A評価で良い。

○ICTの活用の充実

- ・ G 委 員：ICT活用例のデータベース化とはどういうものか。
- ⇒教 頭：授業で使った実践例・活用例を、誰でも見られるようにデータとして残している。
- ・ E 委 員：キャリアパスポートもデータベース化できるか。

⇒教 頭：学びの履歴として残していく。

・A 委 員：先生方はどのように ICT を学んでいるのか。

⇒教 頭：本校の情報教育課が行っている研修や、静岡県主催の ICT 研修を受講している。

⇒副 校 長：ICT 機器に強い人と、肢体不自由教育に詳しい人が必要になる。

・B 委 員：遠隔合同授業を実施できるようにすることの対策はあるのか。

⇒教 頭：授業を限定してしまったので、マッチングがあまりできなかった。他の特別支援学校との授業も考えていきたい。

⇒副 校 長：直接交流の一手手前で ZOOM 授業に参加したり、視線入力装置を活用したボッチャ対決を他校と行ったりすることも考えていきたい。

・委員一同：A 評価で良い。

○保護者や地域、関係機関との連携強化と情報発信

・A 委 員：学校公開は休日に行っているか。

⇒G 委 員：平日の方が放課後等デイサービス事業所や就学前施設の職員が参加しやすい。

・委員一同：A 評価で良い。

○地域に根付いた学校づくり

・E 委 員：ボランティア募集はしているのか。

⇒教 頭：チラシやホームページ、地域の回覧板等で募集している。

・C 委 員：ボッチャ教室の会長をやっているので、ぜひ協力したい。お年寄りも楽しくやっている。

・F 委 員：この地域は高校・大学等あるので、資源を活用していきたい。

⇒副 校 長：近隣の大学や施設から多くのボランティアが来てくださり、大変ありがたい。

・委員一同：A 評価で良い。

○創立 60 周年事業を通して、感謝と夢を語る指導の実践

・委員一同：A 評価で良い。

○共に支え合い、働きがいのある職場づくり

・A 委員：このアンケートは無記名か。

⇒教 頭：記名式で行っている。

⇒C 委 員：先生方が来年に向けて努力していただければ、この評価で良い。

・B 委 員：職員交流はどのようなことを行ったのか。

⇒副 校 長：モルックや謎解きなどを行い、職員の交流を図った。

⇒校 長：現代は職員交流の難しさもある。

⇒副 校 長：職員交流は、目標からは外すが、やりたい人もいるので継続していきたい。

・D 委 員：業務もある中で忙しいと思うが、共に支え合える職場であるために何かできると良い。この数値が上がっていかないと、教育目標の達成にもつながらない。

- ・委員一同：B評価で良い。

○学校運営課題の解決に向けた組織的な取り組み

- ・委員一同：A評価で良い。

○指導の充実にに向けた業務の整理・精選

- ・E 委員：パソコンのメモリを増設するよりもハードディスク・CPU等を変えたほうが良い。

- ・C 委員：時間外勤務が45時間を超す人はいるのか。

⇒教頭・校長：時期によるが、数人はいる。4月が多い。

- ・G 委員：メール等も業務時間外に送ってはいけないという会社もある。時代の流れに対応していかないといけない。

⇒副校長：チャットを活用し始めたが、使用時間のルールなどを考えていきたい。

- ・委員一同：A評価で良い。

【各学部のあらわれ】各部主事、訪問主任より説明

(2)令和7年度の学校教育目標 校長より説明

4 諸連絡

5 閉会の言葉

<校内コンプライアンス委員会>

1 開会の言葉

2 学校の取組説明

- ・人権に対する取組（人権チェックシート、授業アンケート、グループワークによる振り返り、コンプライアンス通信による注意喚起など）
- ・交通安全対策（交通安全に関する掲示・呼びかけ、コンプライアンス通信による注意喚起、交通安全運動等）

3 意見・助言

- ・G 委員：交通事故を起こしたとき、相手が大丈夫と言っても必ず警察に連絡しなければならない。単独で判断はしない。
- ・副校長：児童生徒を性暴力等から全力で守りたい。

4 お礼

5 閉会の言葉